

異邦人にも聖霊降臨

2022年9月4日

使徒の働き 11章1～18節

序：10章（コルネリウス全家の回心・聖霊降臨）by ルカの客観的文章（間接）
11章1～18節 by ペテロ自身の説明（直接）
内容は細部を除けば、ほぼ同じ

I. ペテロへの非難

エルサレム教会の使徒たちとユダヤ人キリスト者が、異邦人の回心を耳にした
ペテロがエルサレムに上って来たとき
割礼を受けている者＝熱心なユダヤ主義者（キリスト者となっていたが）が
ペテロが異邦人（割礼のない、汚れた人たち）を訪問し交わった（会食を含む）件

異邦人が福音を信じ、聖霊を受けた

“ にバプテスマを受けた ことに対する非難ではない

II. ペテロの説明

冷静、率直、順序立てて

(1) ペテロに示された幻

ヤッファの皮なめしのシモンの家の屋上、正午頃、祈りの時、夢心地

天から降りてきた大きな敷布のような入れ物

中に入っていたのは、地の四つ足の動物、獣、這うもの、空の鳥

律法の規定で定められたきよい動物もきよくない動物や鳥

声：「ペテロよ。さあ、屠って食べよ。」

ペテロ：「主よ。そんなことはできません。きよくないもの、汚れたものを
食べたことはありません。」

声：「神がきよめたものを、あなたがきよくないと言ってはならない」

この押し問答が3回あった後、種々雑多の生き物と入れ物は引き上げられた

* ペテロの偏見、ユダヤ主義を取扱い、異邦人へ派遣するための神の備え

(2) カイサリアから遣わされた3人の人が家の前に来訪

御霊：「ためらわずに、彼らとともに行きなさい」

3人の使者、ペテロ、ヤッファの6人の信者たちが、カイサリアに出発

(3) ペテロとコルネリウスの対面（双方とも主によって導かれたことを確認）

(4) コルネリウスがペテロを招きたいきさつを説明

コルネリウスが自宅で祈っていた時に、御使いが現れて言った

「ヤッファに人を遣わして、ペテロと呼ばれるシモンを招きなさい。彼は
あなたとあなたの家の者たち（家族、従者、奴隷）たち全員を救うことばを
あなたに話してくれます。」

(5) ペテロの説教

話始めるとすぐ、まだ話している最中に

(6)聖霊が彼らの上に降った

以前、エルサレムでペンテコステの時にユダヤ人たちに降ったと同様に

ペテロが思い出したこと

イエスの預言の成就：「ヨハネは水でバプテスマを受けたが、あなたがたは
難 1・5 聖霊によるバプテスマを受けられる」

神は、主イエス・キリストを信じる者に、賜物として聖霊をくださる
ユダヤ人であっても、異邦人であっても

(7)これは神の御業、人間が妨げることはできない（聖霊降臨は動かぬ保証）
バプテスマを受けた

Ⅲ．結果

ユダヤ主義のキリスト信者の非難 ⇒ 説明を聞いて沈黙 ⇒ 納得、主への賛美
ひとまず、これから展開されていく異邦人伝道への原則を承認
この後も尾を引くこの問題 cf. ガラテヤ 2・11～14
ペテロの妥協、裏腹な行動

Ⅳ．適用

- (1)非難の原因は、自分にとって願わしくないことに対して、認めたくないかたくなさ
ここでは、キリスト者の中のユダヤ主義者が異邦人の回心を承認したくないこと
同じキリスト者同士でも、誤解や偏見、自己義認等により衝突する
- (2)その解決は「事の次第を順序立てて説明する」こと
意見や印象（主観的）を述べるのではなく、事実（fact）（客観的）を説明
論争はしない、証言をする
- (3)事を始め、導かれ、成就したのは人間ではなく、神であること
神の自由で主権的な行為を、人間が妨げることはできないし、してはならない
- (4)問題が起こること、実践面で混乱や摩擦が生じることは避けられない、
一時的に解決しても、また繰り返す（反省、吟味、熟考するよい機会でもある）
- (5)問題が起こることは問題ではない（キリスト者であっても不完全なので、当然）
問題はそれをどう解決するか、取り扱うか
- (6)幻想、理想に逃避することなく、厳しく辛くても現実をわきまえ、向き合う勇気を
もつ（悪魔からは逃げよ、立ち向かえという2つの命令があるが）
- (7)神がお始めになったことは、神が仕上げられる
主権者は神、私たちは自発的に喜んで主に信頼して従えば、事は成就する
抗弁 ⇒ 傾聴 ⇒ 沈黙 ⇒ 承認 ⇒ 実行